

農業用水を活用し、施設栽培による省力化・低コスト化 ～佐藤 忠男 氏～

経営体の概要

現在：平成28年度
 基幹作物：水稲、トマト、キュウリ
 経営面積：1.0ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

昭和59年頃に就農時し、当時は水稲＋露地野菜を栽培していたが、野菜単価も安く面積を大きくしないと所得が向上しないことから、県単の補助事業を活用し、ハウスを徐々に増設し、本事業により安定的な用水供給が可能となったことを契機に、水稲＋施設野菜に栽培体系に切り替え、有機肥料を使った土作りにより良質な野菜を作ることによって所得向上を図り、農業経営の安定化に努めている。

営農改善のポイント

①作物の変化

県単の補助事業等によりハウスを徐々に増設し、本事業により安定的な用水供給が可能となり、水稲＋露地野菜（タマネギ、キャベツ等）から水稲＋施設野菜（トマト、キュウリ）に栽培体系を変更し、収益性の高い作物に切り替え、所得向上に努めるとともに、米ぬかや菜種かす等の有機質肥料を施肥するなど安全で良質な野菜づくりに取り組んでいる。



施設による野菜栽培

②省力化・低コスト化

施設の利用率の向上のため、トマト（表作）とキュウリ（裏作）の科が違う野菜を作付けすることで、連作障害なども起きにくい栽培体系としている。また、事業により安定的に用水供給が可能となり、通常の用水供給だけでなく連作障害の対応策として太陽熱処理による土壌消毒を行うことで低コスト化や商品の安全性に努めている。



キュウリ栽培の状況

③流通・販売の工夫

熟練者が時間をかけて規格の選別をしていたが、トマト選別機を導入したことで、誰でも短時間で正確に規格の選別が可能となり、市場評価も高くなった。また、市場に販売する野菜の出荷箱には、生産者の名前付きのラベルを貼って出荷することで、信用・差別化を図り、良質な野菜を作りで所得向上を図っている。



トマト選別機

事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業
 関係市町：出雲市
 受益面積：3,728ha
 事業期間：平成17年～平成28年
 事業目的：用水改良
 主要工事：用水路の新設・改修49.7km、揚水機場等の改修3ヶ所、汐止堰新設1ヶ所、水管理システムの整備一式 他

位置図（島根県）



斐伊川沿岸地区

<局問い合わせ先>

中国四国農政局
 農村振興部農村環境課
 電話：086-224-4511
 （内線：2562）

（平成28年度調査時点）